２０２６年度大学共同利用機関法人情報・システム研究機構
国立遺伝学研究所 共同研究「NIG-JOINT」追加募集要項

１．募集内容

共同研究

「共同研究」とは、本研究所の教員と他機関の研究者が特定の研究課題について本研究所の施設・設備を利用して共同で行う研究で、今回、２０２６年度の共同研究（A）について、追加募集を行います。支給する旅費については、原則として所外の共同研究者が本研究所を訪問するためのものとなります。

研究期間は、採択日（ただし採択日が２０２６年３月の場合は２０２６年４月１日）から２０２７年３月３１日までとします。

なお、２０２６年度に既に他の共同研究（A）、（B）、国際共同研究の研究代表者として採択されている場合には、今回の追加募集には応募することはできません。

※２０２６年度より、新たに研究費の申請が可能となりました。

共同研究（A）

・対象は国内及び国外の研究機関等に所属する研究者とし、本研究所に来所して共同研究を実施するための旅費及び研究費（原則として所内で使用する消耗品費等）を支給します。

◎２０２６年度より、新たに研究費の申請が可能となりました。

・１件あたりの申請額は、旅費と研究費の合計で１００千円を上限とします。ただし、海外の研究者については１５０千円を上限とします。なお、研究費の上限は３０千円とします。

２．申請者

原則として国内の大学、大学共同利用機関法人、独立行政法人の研究機関等に所属する研究者、又は国外の研究機関等に所属する研究者とします。なお、大学院生は研究代表(申請)者にはなれませんが、共同研究者に含めることができます。

３．申請方法

「共同利用・共同研究高度化支援システム JROIS」（以下「JROIS」という。）からの電子申請となります。

JROIS： https://jrois2.jrois.rois.ac.jp/

（システム操作マニュアルもこちらからダウンロードできます。）

電子申請システムに係る詳細は、以下の本研究所ホームページ（NIG-JOINT のページ）を参照してください。

https://www.nig.ac.jp/researchers/nig-joint/

(1)申請者は研究課題名称、参加予定者、必要経費及びその他必要と認められる事項について、事前に所内受入教員と打ち合わせを行い申請してください。

本研究所の「研究系等・各研究室の担当教員及び研究の概要」は募集要項末尾に添付しています。

連絡先については、本研究所のホームページを参照してください。

https://www.nig.ac.jp/public/research-infrastructure/

(2)所属機関長の承諾は求めませんが、申請にあたり所属機関で承認等の手続きが必要な場合は、各機関において必ず所定の手続きを行ったうえで申請してください。

(3)申請書は PDF・DOCX・ZIP いずれかの形式で JROIS にアップロードして提出してください。申請書の様式は、https://www.nig.ac.jp/researchers/nig-joint/からダウンロードすることができます。

４．電子申請期間

２０２６年２月中旬（予定）～２０２７年１月２９日（金）

上記締切日時までに**「提出」**された課題を受理します。

※毎月の末日までに申請された課題について、翌月に審査を行います。

（例：4 月末日までに申請された課題 → 5 月に審査・採択通知→通知日より研究開始）

※申請期間を過ぎて提出された課題については、いかなる理由があっても受理しません。

※上記に関わらず、予算の状況によって早めに締め切ることがありますので、ご承知おきください。

５．審査

採否及び経費配分額は本研究所の審査を経て決定し、申請月の翌月に申請者に E-mail にて通知します。また、過年度に採択実績がある研究代表者からの申請については、申請内容が新規か継続かにかかわらず、過年度の経費の執行状況を重視して審査を行います。過年度の採択課題の執行率が低い場合、審査指標の一つとして考慮されますのでご承知おきください。

なお、予算の都合上、配分額が申請額より減額となる場合がありますので、ご了承願います。

６．採択後の研究組織の変更等

(1)研究代表者の所属・職名等の変更があった場合は、当該研究者が JROIS の「利用者編集」画面にてご自身の登録情報を変更してください。

(2)研究代表者の変更、共同研究者の追加・削除又は共同研究者の所属・職名等の変更があった場合は、速やかに所内受入教員を通じて追加・変更届を提出してください。又は、研究代表者が JROIS の申請編集画面の「研究組織変更／異動申請」ボタンから申請種別を選択し、追加・削除又は異動の申請をしてください。

(3)やむを得ない事情により共同研究を実施することができなくなった場合は、所内受入教員から中止届を提出してください。

７．所要経費

(1)旅費・研究費等の経費は、情報・システム研究機構関連規程に基づき、予算の範囲内で本研究所が負担します。各機関への配分は行いませんので、所内受入教員を通じ、手続きを行ってください。

また、宿泊費用については、所内宿泊施設利用　2,500 円／泊、近郊ホテル利用　8,000 円／泊を支給します。（宿泊は可能な限り所内宿泊施設を利用していただきます。）

なお、全行程中に本研究所訪問以外の用務を含む場合は、旅費支給額が減額となる可能性がありますのでご留意ください。

(2)研究代表者は予算の早期執行にご協力ください。やむを得ない事情により全額未執行となる場合には、理由書（任意様式）を提出の上、予算を返納してください。なお、このほか、予算残が生じると判明した場合には、その時点で連絡願います。

８．実施報告書の提出

研究代表者は、２０２７年４月３０日までに JROIS の申請編集画面の文部科学省研究活動等調査回答欄にご入力の上、同じ画面から報告書を PDF・DOCX・ZIP いずれかの形式にてアップロードして提出してください。

報告書の様式は、https://www.nig.ac.jp/researchers/nig-joint/からダウンロードすることができます。

９．研究成果の発表

共同研究の成果を学術論文として発表する場合には、必ず謝辞欄(Acknowledgements)に本研究所共同研究に基づくものであることを次のように明記するとともに、当該論文の別刷１部を報告書とあわせて JROIS から提出してください。

英文・和文ともに：NIG-JOINT(課題番号)

＊課題番号は採択通知にてお知らせします。［通し番号＋ｶﾃｺﾞﾘｰ(A)＋採択年度］

英文記載例（採択者：Taro Iden, 課題番号：1A2026 の場合）

This work was supported by NIG-JOINT (1A2026)to T. Iden.

１０．その他

(1)共同研究では本研究所の施設・設備、及び共通機器を利用することができます。利用可能な共通機器は以下を参照してください。

https://www.nig.ac.jp/researchers/equipment/

(2)遺伝子組換え実験及び動物実験を行う場合は、当該研究の開始前に所内受入教員を通じて「遺伝子組換え実験計画書」及び「動物実験計画申請書」を提出していただきます。なお、

動物実験を行う場合は、所内の資格審査登録及び教育訓練の受講も併せて必要となります。所外の共同研究者も直接動物実験を行う場合には、これらを事前に済ませる必要があります。実施にあたっては、関係法令・指針等を遵守し、適切に実験を行っていただきますようお願いいたします。

(3)本研究所でラジオアイソトープを使用する場合は、使用開始前に放射線業務従事者登録手続き等が必要となります。

(4)本共同研究により得られた知的財産権の帰属等については、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構職務発明等規程に基づき協議することになります。

(5)公募により提供された個人情報は、課題審査のみを目的として利用します。また、採択課題については、本研究所のホームページ及び要覧に共同研究代表者氏名及び所属並びに研究課題名等を掲載いたします。

(6)本研究所の共同研究のために出張される場合、本研究所からの出張依頼書は、手続の簡素化を図るため原則として送付しませんのでご了承願います。
出張の手続きなどは各所属機関で適切に処理されるようにお願いいたします。

(7)一時保育が必要な研究代表者または共同研究者は本研究所が提供する一時保育提供事業の利用が可能な場合があります。
(参考)男女共同参画推進室 HP：
https://sites.google.com/site/nigdanjo/4-day-care?authuser=0

【連絡先】

〒411-8540　三島市谷田１１１１番地
大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所
管理部総務企画課研究支援室研究推進係
E-mail: kyodo-mail@ nig.ac.jp / TEL: 055 (981) 6728

研究系等・各研究室の担当教員及び研究の概要

（２０２６年１０月３１日現在）

研究系等	研究室名等	担当教員名	研究の概要
情報研究系	系統情報	准教授　川本　祥子	本研究室ではナショナルバイオリソースプロジェクトを中心に、生物遺伝資源のデータベースの研究開発を行っている。
	ゲノム進化	教　授　黒川　顕	バイオインフォマティクスおよび統合データベースを武器として、生命科学や地球科学などからもたらされる多元情報を統合的に解析することで、微生物の進化、微生物群集ダイナミクスさらには生命と地球の共進化をゲノムレベルで解き明かす。
	ゲノム多様性	准教授　森　宙史	比較ゲノム解析やメタゲノム解析等の手法によって、ゲノムの多様性と普遍性、遺伝子組成と生息環境との関係性等を情報解析し、多様な生物のゲノム間で共通した特徴を明らかにする研究を主に行なっています。
	生命ネットワーク	教　授　有田　正規 助　教　越水　静	網羅的な代謝物の同定・計測（メタボロミクス）に基づく代謝ネットワークの研究、植物二次代謝物や脂質の生合成に関するバイオインフォマティクス。
	大量遺伝情報	教　授　中村　保一	大量塩基配列解析の効率化ならびに注釈情報の高信頼化に関わる研究。
	ヒト集団ゲノム	教　授　河合　洋介 助　教　藤原　一道	大規模なゲノム解析で得られたデータを使って、人類の集団史や進化の基礎研究に加えて、疾患の病態解明を目指す応用研究を行っている。
ゲノム・進化研究系	遺伝情報分析	准教授　池尾　一穂	ゲノム構造や遺伝子発現パターンからみた生物の進化過程の解明、特に脳や神経系および感覚器に注目した進化の研究。また、様々な生物種のゲノム進化、メタゲノムによる生物多様性の研究。生命情報に関するデータベース構築やソフトウェアの研究開発。
	植物遺伝	教　授　佐藤　豊	イネ胚発生突然変異系統を用いて、植物の初期発生機構の解析を行っている。特に、初期胚の細胞分裂パターンと細胞分化の可塑性に着目した研究を行っている。
	進化遺伝	教　授　明石　裕	集団遺伝学的解析やゲノム比較といった手法を用いゲノム進化に関する研究を行う。特に現在は、生合成やクロマチン構造などの様々な生物で一般的に観察される現象が引き起こす弱い自然選択に注目をしている。

	生態遺伝学	教　授　北野　潤 助　教　山﨑　曜	トゲウオ科魚類は、わずか数百万年の間に適応放散を遂げたことから、生物多様性の進化機構を研究する上で格好のモデル系です。トゲウオ科魚類をモデルとして、種分化と適応進化の遺伝機構を研究しています。
	比較ゲノム解　析	特任教授　豊田　敦	超大規模情報に基づく生命システム全体像の理解をめざし、新型シーケンサとバイオインフォマティクスを駆使した先端ゲノミクス研究を行う。
	分子生命史	教　授　工樂　樹洋 助　教　川口　茜	ゲノムワイドな視野で分子生物学実験と DNA 情報解析を有機的に結び付け、脊椎動物に注目して、ゲノム進化プロセスの解明とそのメカニズムの究明のための研究を進めている。
遺伝形質研究系	共生細胞進　化	教　授　宮城島 進也	葉緑体、ミトコンドリア、及びその他細胞内共生細胞の分裂増殖機構とその進化を、藻類、植物、原生生物等を用いて解析し、恒常的な細胞内共生関係の成立における一般原理を解明する。
	細菌運動マシナリー	教　授　南野　徹	多くの細菌はべん毛と呼ばれる運動器官を用いて環境中を移動する。遺伝学的・生化学的解析に加え、生物物理学および構造生物学的手法を組み合わせ、べん毛の形成機構と運動機構の分子基盤の解明に取り組んでいる。
	植物細胞遺　伝	教授　野々村 賢一 助教　Harsha Somashekar	イネの種子不稔突然変異体の解析を通じて、植物生殖細胞の初期発生過程および染色体動態を制御する遺伝子群の解明を目指す。
	神経回路構　築	教　授　岩里　琢治 特任助教　松本　直之	ノックアウトマウス、トランスジェニックマウス、in vivo イメージングなど多彩な手法を複合的に用いて，哺乳類中枢神経回路の発達と機能の分子・細胞機構の解明を目指している。
	神経システム病態	准教授　浅川　和秀 助　教　中條　暖奈	ゼブラフィッシュを主なモデルとして用い、運動神経回路を行動、回路、細胞、分子レベルで研究する。多角的で深い基礎研究から、運動ニューロンの脆弱性を理解し、ALS 克服への貢献を目指す。
	多細胞構築	教　授　澤　　斉 助　教　根岸　剛文	細胞系譜の解析が容易な線虫を用いて、非対称細胞分裂によって多種多様な細胞が作られる機構を研究している。
	脳機能	教　授　平田 たつみ	主にマウスを用いて、脊椎動物の神経発生、特に神経回路形成機構の解析を行っている。
	マウス開発	准教授　小出　剛	野生由来マウス系統等の行動表現型を明らかにし、遺伝解析手法を用いて関連遺伝子の同定、機能解析を行っている。さらに、ゲノム編集を用いた遺伝子改変マウス作製技術の開発および機能解析への応用を進めている。

遺伝メカニズム研究系	ゲノムダイナミクス	教　授　前島　一博	細胞内のゲノム DNA の折り畳み構造やダイナミクス、さらにそれらの機能制御について、細胞生物学、物理、化学など幅広い手法を用いて研究を進めている。
	細胞建築	教　授　木村　暁 助　教　鳥澤　嵩征	線虫 *C.elegans* 胚における核と染色体の細胞内動態・小器官の流動現象・細胞質分裂を主な対象として、定量計測やコンピュータ・シミュレーションを駆使した「細胞建築学」の発展を目指している。
	染色体生化学	教　授　村山　泰斗 助　教　黒川　裕美子	精製タンパク質を用いた試験管内再構成実験を用いて、染色体動態制御について研究しています。特に、染色体構造の主要な構成因子である SMC 複合体の機能を明らかにすることを目指しています。
	物理細胞生物学	准教授　島本　勇太 助　教　田中　真仁	核や紡錘体などの細胞内構造が持つ自己組織化能と力学応答性の研究を行っている。ガラス製微細探針を使った細胞内マニピュレーション、光ピンセット、一分子蛍光イメージング、インビトロ再構成などの手法を開発しながら定量性の高い研究を進めている。
	分子細胞工　学	教　授　鐘巻　将人 助　教　山口　幸佑	ヒト培養細胞における DNA トランスアクションを理解するために、オーキシンデグロン法によるコンディショナル変異細胞作成をおこない分子遺伝学、細胞生物学的手法を用いて解析をしている。またヒト細胞の解析に必要な新たな細胞株構築技術を開発している。
	無脊椎動物遺　伝	教　授　齋藤　都暁	キイロショウジョウバエを用いて、エピトランスクリプトームの生理的意義やヒト希少疾患研究を展開している。
新分野創造研究系	遺伝子量生物学	准教授　佐々木 真理子	出芽酵母とヒト培養細胞において DNA 量を変化させるゲノム変化機構を遺伝学および分子生物学的手法を用いて研究しています。数 Mbp の巨大 DNA の抽出およびパルスフィールドゲル電気泳動法による分離なども行っています。
	植物進化	准教授　福島　健児	バイオインフォマティクスと分子生物学実験を組み合わせて、さまざまな生物、特に植物に焦点を当てて革新的形質進化の仕組みを研究しています。
	理論生態進化	准教授　山道 真人	種内の遺伝的多様性と群集内の種多様性の相互作用に着目し、数理モデル解析・プランクトンの培養実験・メタ解析を組み合わせて、迅速な進化と生態学的プロセスとの間に働く複雑なフィードバックを研究している。

薬品・アイソトープ管理ユニット		助　教　安達　佳樹	線虫にて microRNA による転写後制御を研究しており、microRNA や標的遺伝子を検出する方法の開発と活用を進めている。
バイオデータ研究拠点（BSI）	ライフサイエンス統合データベース部門（DBCLS）	教　授　五斗　進 特任教授　片山　俊明 特任准教授　川島 秀一 特任准教授　川嶋 実苗 特任准教授　金　進東 特任准教授　畠中 秀樹 特任准教授　藤原 豊史 特任准教授　箕輪 真理 特任准教授　守屋 勇樹 特任准教授　山本 泰智 特任助教　千葉　啓和 特任助教　細田　正恵 特任助教　森岡　勝樹	生命科学・医薬分野のデータを利活用しやすくするためのデータベース構築とそれに関する研究開発を進めています。またその成果を創薬などの応用研究につなげることを目指しています。
統合研究コア（NIGiRC）		特任准教授　鳥井 孝太郎	生きた同一細胞・個体から時系列に分子情報を取得する技術を開発・応用し、生命ごとに固有の分子動態と運命を結ぶ生命軌道を捉える。この生命軌道の個性から単一生命の理解に挑戦する。
		特任准教授　松島　和洋	トランスポゾン由来の機能性配列と、これらを制御する転写因子に注目し、哺乳類細胞を用いたマルチオミクス解析と比較ゲノム解析を統合することで、急速な遺伝子制御プログラムの進化を解明する。
	先端ゲノミクス推進部門 シーケンシング室	特任教授　豊田　敦 准教授　後藤　恭宏	ゲノム解析を基盤にした細菌の遺伝的多様性や進化に関する研究を通じて、それらを駆動する選択メカニズムや環境中での実態について理解することを目指す。
	先端ゲノミクス推進部門 データ解析室	特任教授　野口英樹 准教授　森　宙史 特任准教授　小杉 俊一 特任准教授 KRYUKOV, Kirill 特任助教　寺内　真	多様な生物種の配列データから、ゲノム構造の再構築や機能領域推定を行うための情報科学的手法の開発、およびその適用研究。次世代、次次世代シーケンサを活用した、新しい解析手法の開発。